

研究のまとめ

○研究主題

「伝え合う活動を通して、学び・育ちを実感できる児童の育成」

○研究主題にせまるために

今年度の研究主題を受けて、授業の時間に伝え合い活動（友達との話し合い・伝え合い）を通して、自分の考えを広げたり深めたりするための活動を設ける。また、学び・育ちを時間するための手立てとして、振り返り活動を行い、授業の始めと終わりの変化を実感できるようにする。

○各分科会の目指す児童像と取組について

低学年

目指す児童像	相手の考えを受け止め、自分の考えを伝える喜びを味わい、学ぶ楽しさを実感できる児童
研究授業	第2学年 生活科 教材名 「せかいで ひとつ わたしのおもちゃ」 単元名 「おもちゃランドをつくろう」
主題にせまるための手立て	① ペアグループでの伝え合い活動 ② ワークシートを使用しての振り返り活動
成果	単元を通して、1年生をおもちゃランドに招待しようというテーマで活動を行うことで、相手意識をもって活動に取り組むことができた。また、1年生でも楽しめるおもちゃや、ルールの工夫という明確な視点を意識して、伝え合い活動を行うことができた。主題にせまるための手立ての成果は以下の通りである。 ① ペアグループでお互いの作ったおもちゃや遊び方を見合うことで、相手の良さや自分との違いに気づき、お互いを認め合ったり、伝え合う楽しさを感じたりすることができた。 ② 毎時間ワークシートで振り返り活動をすることで、学び・育ちの実感につなげることができた。

中学年

目指す児童像	他者との伝え合う活動を通じて、自分の考えが広がる楽しさを実感できる児童
研究授業	第3学年 理科 単元名 「ものの重さ」
主題にせまるための手立て	① 発表の仕方の掲示（伝え合い活動） ② ハンドサインの使用 ③ 友達の考えが分かる ICT の活用の工夫 ④ 学びを振り返るためのワークシートの活用
成果	単元を通して、始めの予想をしっかりとつための、自分一人でじっくり考えられる『自分タイム』（この時点で、根拠をもてなくても構わない。）次に、友達の意見を聞き合う『みんなタイム』、最後に、もう一度一人でじっくり考える『ふかまりタイム』を設定して、自らの学びを振り返らせる学習サイクルを行うことで、活動に見通しをもって参加することができた。また、ハンドサインを使用することで、自分の考えと同じなのか違うのかをよく考えて聞くようになり、多様な考えを聞くために、活用することで、他者意識をもって学習に取り組むことができた。主題にせまるための手立ての成果は以下の通りである。 ②①③ 伝え合い活動を効果的に行うための手立てを施すことで、他者意識をもちながら学習に取り組むことができた。友達の意見を「もっと聞きたい」「自分との違いを知りたい」という意欲を高めることができた。 ④ ワークシートに学びを振り返ることで、児童一人一人が学び・育ちを実感することができた。

高学年

目指す児童像	他者との関わりを通してめあてを達成し、成長を実感できる児童
研究授業	第5学年 音楽科 題材名 「いろいろな音色を感じ取ろう」 教材名 「祝典序曲」「打楽器の音色を生かして音楽づくり」
主題にせまるための手立て	① 視覚的に考えが分かる教具の工夫 ② ICTを使用した振り返り活動
成果	<p>学習過程では「打楽器の音色を生かしたリズムアンサンブルづくり」への見通しをもって、教える場面と考えさせる場面を毎時間設定することで、すべての児童が学びに参加し、ゴールイメージをもって伝え合い活動に参加することができた。また、児童が楽しみながら意欲的に活動に参加することができた。主題にせまるための手立ての成果は以下の通りである。</p> <p>① リズムカードを使用して、自分の思いや意図に合ったリズムを作ることができた。また、グループでリズムカードを使用することで、リズムの並べ替えや反復のイメージを共有することができ、全員が参加できる伝え合い活動を行うことができた。また、</p> <p>② 毎時間めあてに沿った振り返りを行うことで、児童一人一人が学び・育ちを実感できた。また、グループで伝え合ったことや頑張ったことを個人で振り返ることで、他者の工夫や考えに触れ、自分の考えが広まったり、技能が高まったりしたことを実感できた。</p>

○年間を通しての成果

各学年で、伝え合い活動の工夫を行うことで、児童の学習への意欲が高まった。伝え合い活動を通して、「伝え合うことの楽しさ」「友達の意見を聞く面白さ」「新しい考えを知る楽しさ」を児童一人一人が感じることができた。また、振り返り活動を行うことで、自分の学び・育ちを実感することがし、次時への見通しや意欲をもって参加することができる児童が増えた。